

全鉄連情報

平成20年5月15日刊

[第63号]

目次

P1 加盟団体報告
P1 鉄鋼課連絡会報告
P1~2 常任理事会報告
P2~3 鉄流懇報告

P3 企業消息
P3 会員入退会
P4 講座アンケート結果
P5 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

加盟団体報告

(平成20年4月1日
~4月30日)

50回記念大会を盛大に催す

△東京鉄鋼販売業連合会 (西村達夫会長)

4月5日(土)鉄鋼新聞社との共催による「第50回東鉄連春季親睦ゴルフ大会」が鷹之台カンツリー倶楽部で開催された。今回は50回目の記念大会となった。快晴ほぼ無風の絶好のコンディションに恵まれ、34名が参加し、18ホールのストロークプレーで熱戦が展開された。その結果、総合優勝は山岸邦幸氏(東邦シャリング、ハンディ1)が、アウト38、イン36、ネット73で栄えある永野杯を手中に収めた。クラス別ではシニアは宮越昭吾氏(小沢産業)がネット77(ハンディ16、アウト44、イン49)ミドルは安井貞幸氏(オトフジ)がネット80(ハンディ13、アウト47、イン46)ジュニアは西山寛氏(西山鋼業)がネット76(ハンディ3、アウト43、イン36)でそれぞれクラス別優勝となった。プレー終了後、表彰式並びに懇親会が催された。西村会長は「50回の記念大会を絶好の天気のもとで開催できたのも、なにかの巡り合わせではないだろうか。コース沿いの桜も満開で、和やかな雰囲気の中プレーできたことが何よりだと思う」と挨拶していた。

200名を超える受講者

4月8日(火)9日(水)の両日に鉄鋼新聞社との共催による第46回鉄鋼新人・中堅社員教養講座が開講された。初日の8日は浦安鉄鋼会館で5名の講師を招き講義を受けた。住友金属工業営業総括部長・新屋敷信幸氏、メタルワン執行役員国際本部長・木下幹夫氏、藤澤鋼板社長・藤澤鐵雄氏、プレジデントコミッティ代表・宮本慎氏、講師で声優でもある一龍斎貞友さんの5名であった。講座2日目の9日は住友金属工業鹿島製鉄所とカシマスタジアムを見学。カシマスタジアムでは当日、鹿島アントラーズの試合が予定されていたにも関わらず試合直前のピッチ、記者会見ルーム、選手のロッカールームなど普段では入れないところまで見学できた。鹿島製鉄所では所内のコミュニティホールで製鉄所の概況、生産体制などについて説明を受けた後、4台のバスに分乗して所内を見学。第2製鋼工場(第3連続铸造)熱延工場、第2薄板工場がバスを降りての見学であった。受講者は、その生産規模や熱気を肌で感じ取っていた。見学終了後、質疑応答が行われ、午後3時30分頃製鉄所を後に東京への帰路に着いた。午後5時半頃に出発地である両国に着き、解散した。今回の受講者は226名。なお、製鉄所見学については受け入れの事情により20名程の方々にはお断りをせざるを得ず、主催者としてこの紙面を借りてお詫び申し上げる次第である。

富山総会には全員参加を

△石川県鉄鋼会 (南昭武会長)

20年度定時総会を和倉温泉「加賀屋」で開催。冒頭南会長は「年明けから鋼材相場が大幅上昇し、まだその途中である。我々のお客は9割が最終ユーザーなので供給責任を果たさなければならない。また、6月には富山で全鉄連総会が開催される。全員参加をお願いしたい」と挨拶していた。総会終了後、現状の市場動向について懇談。価格動向、需給動向、店売りと紐付きの問題、ミルシートの取り扱いなどについて意見を交換した。

新副会長に川勝氏就任

△東北鉄鋼販売業連合会 (齋藤芳郎会長)

18日(金)20年度総会を仙台市内「ホテル白萩」で開催。新副会長に川勝修二氏(遠藤鋼機仙台支社長)が就任した他、井上鋼材東北工場(福島県須賀川市)が入会した。これで同会は45社となった。総会開催にあたり齋藤会長は「仮需が収束して特約店の倉出しが不安視される。建設コストの上昇でマンション建設が下火になるなど建設投資が減少し、建設業者の倒産も頻発している。価格が上がったなかでの与信管理を心して経営に臨むべきである」と引き締めた。来賓の林喜裕全鉄連が講演し「引き合いは静かだが、モノ不足と原料高から市況の上昇は続くだろう。昨年は改正建築基準法による官製不況で今年は政治不況。建設需要の減少が予想され、もう少し辛抱する必要がある」と所見を述べていた。

関連会議報告

鉄鋼課連絡会

4月23日(水)

会場 鉄鋼会館803号室

出席 松淵・野辺(経済省) 林・木下(愛知) 西村・中村(関) (東京) 阪上(大阪) 今井(北海道) 齋藤(東北) 今井(新潟) 河上(富山) 杉山(一日役員・岐阜)

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は117,500円前月比+6,700円、前年同月比+30,300円。鉄鋼課より4~6月期の需要見通しと経済産業省による資源確保指針について説明があった。また、スクラップ需給改善について全鉄連から意見が述べられた。

常任理事会

●鋼材品質証明検討委員会の第2回会合が4月21日(月)開催され、その模様について事務局より報告があった。この委員会は建設に係わる鉄鋼メーカー、流通、ファブ、ゼネコン、設計士、行政を包含した組織であるため、各業界の実態を精査し鋼材の品質管理を徹底していくことになった。

●平成20年度富山総会の運営について協議。スローガ

ン「大変革時代を乗り越えよう」を採択。また、当日行われた会計監査の報告がなされた。

●流通4団体ホームページについて、横河技術情報網営業部課長・染宮茂氏が出席し、概要を説明した。

第399回鉄流懇概要

仮需一服だが市況は先高

●東鉄連からの概況報告（中村）

△鉄筋…スクラップは3月に踊り場局面となったが、その期間は短く、すぐに上昇に転じた。21日の東京製鉄値上げは予想以上の上げ幅だった。現状の売上数量はRC物件が減って通常の70%程度の動きとなっている。△平鋼…3月にある程度の仮需があったが、4月になり動きが鈍くなった。メーカーは20%の出荷削減を継続している。そのため在庫は減少し、厚いサイズを中心に歯抜けが出ている。スクラップの上昇は止まる気配ない△形鋼概況…3月は入庫増、出庫増、在庫減。4月からコラム、軽量製品が大幅値上げされ、そのため先行手配が行われている。在庫は非常に減少して、引き合いに対応できない。

△H形鋼…在庫が減って、ときわ会在庫は史上最低の水準となり、部会調査でも15%減少している。歯抜けが多く、引き合いに対応できない。供給状況からして、この状態がしばらく続きそうだ。在庫が物凄く減っているとの感が強い。

△一般形鋼…チャンネルのベースサイズ在庫が減少している。市況も値幅のあるものとなっている。建築需要は増えず、4~6月の荷動きは落ちるだろう。

△C形鋼…メーカーは想定される需要に対して4~5割の供給態勢でしかないと思うので、供給がショートする可能性がある。地方特約店からそこそこの仮需が入っている。

△広幅製品…メーカーはデッキの価格を上げてきた。販売店としても、これに対応していかざるを得ない。

△コラム…STKRはほとんどなくなり、BCRになっている。メーカー値上げの転嫁に追われている。小型物件はあまり動いていない。

△薄板概況…価格が下がる状況ではないが、3次店クラスの販売業者は苦しいだろう。間違いなく言えることは集購化が進むことだ。価格が収まった時、店売りがどうなるのか、無くなってしまう懸念がある。

△表面処理…集購化が進んでいるが、紐付き価格が値上げ幅が決まっていない。在庫が減っていないにも関わらずタイト感が募り、それが価格を維持している。実需はないが、地方3次店からの引き合いはある。

△厚板耳付き、切板母材…3月部会調査では販売増加、在庫減少。足元の動きは鈍い。3月、かなりの仮需が動いた。今回の東京製鉄値上げ発表で厚板のネットは、現状の切板価格とほぼ同じになった。時期は定かではないが、高炉の再値上げの話が浮上している。先高ではあるが、上げて追いつかないのが実態である。

△中板・ホットコイル…厚板に引張られながら、品薄感が出ている。1月から上昇し続け、現状でも通過点である。2、3月仮需で、4月一服というが、3月時点で販売が落ちてきているところもある。ホット系のコイルセンターは受託加工が増加している。

△厚板定尺…価格はいい水準になったきたとの感がある。これが地方筋や加工をされてエンドユーザーにいくらで納まっているのだろうか。国内でも好調なところもあるが、全般的には先細り感がある。引受をカットされており、引き合いがきても売れないこともある。

△敷板…注文がくれば価格を提示するが、中板より高い場合もある。

△縞板…1~3月は仮需により販売増であったが、切板は10~12月と同じ量だった。厚板供給が思うようにならず、切断工程が組めない。階段向けはタイト。

△鋼管概況…3月に大幅なメーカー値上げがあり、高炉・熔協とも仮需があった。通常の2~3割増しの玉が動いた。紐付き玉の市中還流が散見される。

△高炉品…ガス管値上げは4月には通っている。シームレスはこの4~6月の店売りを30%カットされた。紐付きは目いっぱいの状態。小径角が浦安で品不足となっている。

△熔協…STKは3月からかなり仮需が出て、ここ2年で最高の売上であったところが数社あった。かなり荷が動いたので、4月になったらピタリと止まるだろうと思っていたが、そうではなかった。連休明けに反動が出てくると思うが、予想外のことが続出しているの、見通し難である。

先々の供給減少に不安感

●OSAからの概況報告（阪上）

1~3月は仮需先行手配で販売は増加したが、10~12月の大幅減を回復したに止まっている。仮需一服で4月販売は3月比10~15%ぐらい減少することになる。H形鋼、一般形鋼は1~3月で在庫減少、薄板も市中品薄と言われているが、統計では微減である。ただH形鋼には品薄サイズが目立つ。供給減少のアナウンスにやや不安を感じている。市況はここで一服感が出ていたが、東京製鉄大幅値上げ発表で、さらなる売値への転嫁に迫られている。原料事情をうんぬんされているが、1~3月の生産は順調であった。現状、市中や中小ユーザー向けの引受が絞られている。では、生産されたものがどこにいつているか、ということになる。安い紐付きユーザーに納入するため、一生懸命スクラップを買って生産している一方で、ますます高い材料を買わなければならない中小零細にしわ寄せされている、という構図がありはしないだろうか。

大幅値上げ発表で見通し難に

●愛鉄連からの概況報告（木下）

4月に入り反動が出てきたようで、実需見合いで低調な動きが続いている。品不足で逼迫していたものが解消した品種もある反面、厚板、酸洗は解消の目処が立たない。特に厚板は玉確保できず、見積もりができない状態である。建設は昨年からの確認申請の遅れがあり、その立ち直りを5~6月に期待しているが、予想外の材料高騰、手配難で延期、中止も出ている。5月には仮需先行手配の反動が出てくるだろう。先日の東京製鉄大幅値上げ発表で、他の電炉も追従するものと思われる。落ち着きを取り戻している当地区の市況も見通し難となった。

資材高騰で先々の需要の不安感

●北海道からの概況報告（今井）

道内産業は全業種とも弱い。鋼材消費の80%が建設業向けという地域的特性がある。2～3月の仮需前倒しも一巡した。H形鋼は3月末で相当減少しているが、それは引き受けカットによるものである。北海道機械工業会鉄骨部会は現状の資材高騰、調達難に鑑み関係各方面へ陳情を行った。資材だけでなくエキストラも値上げされている。新規案件の引き合いはなく、道路関連事業の中止、民間中小案件も資材高騰で取りやめる物件も出ている。

仕事量の不足で地場業者が苦境に

●富山からの概況報告(河上)

現状の荷動きから見ると小口物件に終始している。製品価格が急騰しているため見積もりが追いつかない。北陸は仮需もなく、6月まで前年比では伸びていくが、それは前年実績が悪かったためである。これだけ価格が上がっているのに売上が伸びないのは数量ダウンが響いていることによるものだ。地方において100トン、200トンの仕事が主体であり、それに係わるファブ、中小ゼネコンの倒産もさることながら、物件が出てこないことにはどうにもならない。消えていく物件も多いと思う。また、1～3月に発注された物件の商談が進んでいない。北陸新幹線工事が最盛期であり、これが唯一の救いであろう。

与信不安と需要不足を懸念

●岐阜からの概況報告(杉山)

地方都市で商売をしているが、やはり経済全体が良くならないと地方の活性化はおぼつかない。厚板シヤは値上げにより数量カットが厳しい。鉄筋加工業者は改正建築基準法の影響を大きく受けている。価格高騰で与信が懸念される。また、我々は価格動向に対して受動的な立場なので、今ある在庫を大事に売っていく他はない。先行き、見える物件もあるが、下期に向けての中小案件には延期及び中止という話もちらほら聞く。

不確定要素の強い現状に自然体で臨む

●林会長(総括)

売れ行きは良くないが、4月も惰性でそれなりの利益は出るだろう。スクラップは信じられないほどの上昇である。電炉は赤字となっているだろう。スクラップ価格プラス3万ほどあれば、そこそこだと言われていたが、コストが猛烈に上がっている。スクラップだけでなく原料や副資材の高騰により製品の大幅値上げとなっている。流通は追いつくのが精一杯である。数カ月先、何が起きるかわからない状況なので自然体で付いていく他はない。産業界は今の事態に真面目に取り組んでいる。それに引き換えての、政治の酷さを感じてならない。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

実見合いの生産、販売を

●経済産業省(松淵課長補佐)

2月の建築着工戸数、建築確認申請件数からして、改正建築基準法の影響から緩やかながらも回復しているようだ。ただし、構造別にみると、着工戸数ではS造のみプラスとなったが、RC、SRCは大幅減。着工面積ではいずれもマイナスとなり、依然として中小物件を中心に低調な推移である。当初の想定より影響が長期化する

可能性がある。建築需要については資材高騰などから物件の中止や延期など先行き懸念材料もあり、引き続き実需を見極めた対応をお願いしたい。鋼材に限らず、広範囲に物価が上昇するなか、原料高を鋼材価格に反映させる事情は理解できるが、ユーザーに対する十分な説明努力は必要である。与信管理についても一層注意していただきたい。

存在感を高め、柔軟性を持って対処を

●小野会長

景況感の悪化、原料暴騰、環境問題上の制約などで足元のリスクや先行きの不安が増幅している。2月の鋼材受注が全体としてプラスに転じるなか、販売業者向けが減少していることから流通が厳しい状況に置かれていると認識している。他方、4～6月の需要見通しでは自動車、電機、造船は好調を持続している。経済のグローバル化が製品、原料にも波及して、それに翻弄され、容赦なく影響が押し寄せている。そのような趨勢にあっては柔軟性を持って、各々の存在感を高めていくべきであろう。

会員企業消息(平成20年4月1日～4月30日)

〔所在地・代表者変更など〕

○金子商事(株)(川口)～社名を4月1日付でカネコ鋼管鋼業(株)に変更した。

○鶴町製鉄(株)(OSA)～新代表者に嶋田年男氏が就任した。

○伊藤忠丸紅スチールAP(株)～新代表者に倉橋充氏が就任した。

○戸田通商(株)(茨城)～新代表者に戸田恵子氏が新任した。

○植木鋼管(株)(東鉄連・鋼管)～新代表者に植木美久氏が就任した。

会員入退会(平成20年4月1日～4月30日)

〔入会〕

*該当事項なし

〔退会〕

*該当事項なし

(了)

第46回鉄鋼新人・中堅社員教養講座講座を終えてのアンケート (東京鉄鋼販売業連合会)

実施日 平成20年4月8日、9日
 総受講者 226名
 (女性42名)
 講座受講者 208名
 工場見学者 198名
 受講者平均年齢 25.0歳
 アンケート回答者 158名
 回答率 69.7%
 *なお、コメントについては紙面の都合上、一部割愛させていただきました

問	話がよくわかりましたか？			話の内容に理解できない点がありましたか？			仕事をしていくうえでプラスになる話でしたか？			また、話を聞いてみたいと思いませんか？			感銘を受けたり強く感じるようなところがありましたか？		
	わかりやすかった	むしろかしかった	どちらともいえない	かなりある	あったが少しだった	なかった	そう思った	そうは思えなかった	なかった	また聞いてみたい	そうは思えなかった	なんともいえない	そんな感じをもった	それほどでもなかった	なんともいえない
演題・講師															
鉄鋼キーワードの解説・星野義春	93	32	32	28	84	45	132	2	20	93	12	52	67	25	65
業界の先輩として若き鉄鋼マンに贈る新屋敷信幸	88	50	18	41	77	38	125	3	24	101	13	42	72	27	58
商社マンから見た鉄鋼流通・木下幹夫	131	10	16	19	42	94	98	7	51	127	6	22	100	21	36
鉄の復権・藤澤鐵雄	137	11	9	27	39	91	143	6	7	120	13	24	130	12	15
社会人としての気構え、身構え・心構え 宮本慎	124	9	24	23	36	97	130	5	21	75	30	51	74	37	45
私の人生、日々の挑戦・一龍斎貞友	142	2	10	22	32	99	116	5	32	122	6	24	118	13	26

受講者からのコメント

住友金属工業鹿島製鉄所を見学して

- 分厚いスラブが熱間圧延でコイルに巻き取られていく工程には迫力があつた。
- 実際に工場見学して、高炉から鉄鉄が出てきて製品になるまでの過程がよく分かった。
- 耳に残った言葉が「ご安全に」であり、工場内で目を引いた言葉が「安全最優先」だった。何よりも安全を優先する心構えは、会社規模の大小を問わず、鉄鋼に携わる者として必要な資質であると認識した。
- 製鋼、熱延、冷延と見てきてとても感動した。私たちが生活していく上で必要とされるものが沢山作られていることを知り、改めて鉄の重要性を感じた。
- 自分が販売する商品がどのような過程で製造されているかを知ることができ、とてもよい経験になった。
- 製鉄所では日々、効率化を求めた活動が行われているようだ。水、発生ガスなどの再利用をはじめとする環境にやさしい工場作りが進んでいることを知った。

カシマスタジアム見学について

- サッカーファンなのでとてもうれしかった。普段は入れない選手のロッカールームに入れたことにとても感動

した。

- 建設に要した年月と使用した鋼材総量の説明がほしかつた。

講演を聴講しての感想、その他意見

- さまざまな角度から鉄を知ることができ、有意義な2日間だった。
- すごいの一につきる。藤澤社長の鉄に対する熱い想いが伝わり、鉄に対する誇りが持てるようになった。
- 鉄鋼業界の現在の状況や需要動向について詳しく説明していただき、とても勉強になった。鉄鋼業界を知ることはもちろん、世界や日本の経済動向を勉強する必要があると実感した。
- 新人としてのマナー、社会人としてのモラルを教えていただいた。自分自身も早く身につけていきたいと思った。
- 講座は長時間なのでしっかり聞けるか心配だったが、どの講演も興味深い内容だったので時間が経つにのが早く感じられた。
- 鉄鋼キーワードの解説は鉄鋼業界、鉄鋼製品の知識がなかったため、難しく感じられた。
- 一龍斎貞友さんの講座が一番印象に残り、とても面白く、ためになる話だった。

4月22日締切で、当会役員168名に対し、このアンケートを行ったところ、97名(57.7%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

*D I 算出方法 = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 回答数×100

売上金額大幅増

【問1】貴社の3月(先月)の総売上金は、前年同月比如何でしたか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	3月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		
▲5	▲24	▲17	▲16	2	▲33	▲57	▲56	▲54	▲74	▲22	36	数量	26(27%)	17(17%)	29(30%)	12(13%)	12(12%)	96	34
5	▲4	8	15	19	▲6	▲47	▲24	▲38	▲53	4	4	金額	48(49%)	21(22%)	21(22%)	4(4%)	3(3%)	97	110

仮需一巡、販売減少傾向

【問2】貴社営業窓口から見て4月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	3月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		かなり増	やや増	ほぼ横ばい	やや減	かなり減		
▲50	▲48	▲34	▲39	▲53	▲58	▲59	▲65	▲66	▲82	▲59	▲34	公共建設向		2	25	30	19	76	▲87
▲28	▲23	▲7	▲3	▲39	▲31	▲64	▲85	▲81	▲84	▲47	▲18	民間建設向	1	6	26	39	13	85	▲67
▲26	▲26	▲12	▲9	▲45	▲12	▲14	▲11	▲11	▲15	2	2	自動車向		5	23	13	1	42	▲24
▲25	▲23	▲6	±0	▲36	▲14	▲32	▲39	▲44	▲47	▲8	1	その他需要家向		8	36	28	6	78	▲41
▲49	▲61	▲52	▲21	▲35	▲34	▲45	▲43	▲58	▲52	1	3	仲間取引	3	6	20	33	8	70	▲53
▲36	▲36	▲20	▲14	▲41	▲32	▲46	▲53	▲56	▲61	▲25	▲11	計	4	27	130	143	47	351	▲58

収益状況さらに好転、先々に不安感

【問3】貴社の3月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	3月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		黒字	若干赤字	取返トントン	若干赤字	赤字		
93	64	57	78	79	52	52	59	71	16	38	116		57(60%)	24(25%)	11(12%)	3(3%)		95	142

仮需の反動を懸念

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	4月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		
32	26	52	56	52	36	▲4	▲36	▲59	▲29	18	2		2(2%)	16(17%)	36(38%)	32(34%)	9(9%)	95	▲32

厚板さらに逼迫、入手難へ

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	需要状況	A	B	C	D	E	計	4月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給角虫	非需に不足	やや不足感	ほぼ需要均衡	やや過剰感	非需に過剰		
52	38	15	27	45	34	21	±0	▲10	2	13	41	鉄筋用丸鋼	4	16	29	3		52	40
9	±0	2	±0	7	6	±0	▲2	▲10	▲6	10	19	構造用丸鋼	1	9	32	4		46	15
▲2	▲7	▲11	▲7	2	±0	▲5	▲14	▲11	▲9	11	31	平角鋼	3	17	33			53	43
▲20	▲23	▲22	▲2	16	19	▲8	▲29	▲35	▲3	37	86	H形鋼	12	33	14			59	97
▲6	▲15	▲18	▲11	▲2	▲4	▲27	▲31	▲44	▲27	▲4	59	コラム	12	19	13			45	93
▲6	▲15	▲17	▲18	▲16	▲3	▲13	▲24	▲14	▲15	12	45	小形山形鋼	2	20	38			60	40
▲3	▲15	▲18	▲19	▲20	▲7	▲10	▲24	▲14	▲13	13	49	中形山形鋼	5	20	35			60	48
4	▲8	▲21	▲18	▲17	±0	▲8	▲19	▲13	▲10	20	79	溝形鋼	9	27	22			58	78
▲15	▲16	▲17	▲20	▲18	▲19	▲23	▲31	▲33	▲25	▲15	8	軽量形鋼C形		9	40	3		52	12
▲12	▲11	▲15	▲6	▲5	▲11	▲16	▲18	▲24	▲12	▲14	13	軽量形鋼広幅		9	34	2		45	16
▲8	▲9	▲22	▲22	▲24	▲22	▲24	▲27	▲30	12	45	91	冷延薄板	8	17	18	2		45	69
12	8	▲10	▲28	▲26	▲18	▲13	▲19	▲23	12	48	87	熱延薄板	6	35	19	1		61	75
▲5	▲2	▲13	▲14	▲13	▲16	▲24	▲24	▲25	±0	36	82	表面処理鋼板	8	21	16	4		49	67
▲13	▲23	▲17	▲42	▲45	▲30	▲24	▲24	▲28	39	100	135	酸洗鋼板	16	21	11	3		51	98
11	▲6	▲6	▲26	▲35	▲17	▲6	▲18	▲13	11	69	92	中板	8	35	20	1		64	78
28	18	12	15	20	48	29	38	47	63	90	105	厚板	25	32	10			67	122
35	14	15	29	38	63	50	64	66	83	100	118	極厚板	16	17	8			41	120
▲2	▲2	▲5	▲5	▲7	▲6	▲6	▲14	▲4	▲4	5	42	縞板	1	22	26			49	49
▲13	▲14	▲16	▲15	▲16	▲16	▲23	▲22	▲29	▲17	▲9	22	中径角	2	9	39			50	26
3	▲7	▲9	2	▲9	▲9	▲18	▲16	▲18	▲14	▲7	24	ガス管・黒	1	14	37	1		53	28
±0	▲8	▲12	▲2	▲10	▲9	▲19	▲18	▲23	▲17	▲6	23	構造用鋼管		12	31	1		44	25
2	▲5	▲10	▲9	▲7	▲1	▲8	▲14	▲14	2	26	61	計	139	414	525	27		1105	60

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2008年4月)

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
発表項目	メタルワゴン	住友商事	阪和興業	三井物産
1. 需給動向 (景況感)	引き続き大手紐付き向け出荷は堅調。3月の仮需の反動もあり店売りは総じて低調。溶協品種の一部は母材コイル不足の為、需給タイト感あり。	2月末の薄板三品在庫は408万トンと前月比▲9.5万トンの減少。今後は原料炭問題や高炉の定期修理から供給は更にタイトとなる。原料炭価格が想定以上の3倍の値上げとなったこと、スクラップ上昇が止まらないことから、第二弾の値上げが予想され、メーカーは更に上昇を続けるものと思われる。	造船の好調は継続、建機もサブプライム問題で北米向け落ち込むも、鉱山向け大型建機好調で補えており、今後も需給はタイトなまま継続すると思われる。市中在庫は非常に少なく、価格も高騰しているが、1-3月の仮需も一服した感があり、荷動きも落ちてきている。	改正建築基準法の影響から荷動きは2,3月に比べて徐々に徐々にはあるが上向いているものの、迫力不足。
2. 需要産業動向	自動車・建機・産機・造船向けシームス管/電線管の需要堅調。改正建築基準法の影響により民間設備向け配管需要は低迷。	2月の四輪車販売は322千台と昨年並み、輸出は588千台と前年同月比13%増で、生産は1,098千台と前年比+9%となった。2月の新築住宅着工戸数は83千戸と8ヶ月連続の前年割れとなったが、減少幅は5%と回復傾向にある。	08年2月の造船手持工事は、6,522万GTで、前月比43万GT増。建機は、2月度出荷金額で2,266億円で前年同月比19%増(内需648億円8%減、外需1,619億円30.1%増)。内需で3ヶ月連続の減、外需で71ヶ月連続の増、総合計で65ヶ月連続の増。橋梁は、メーカーロールのタイトさもあり、加工がずれ込んできており、高水準推移。建築は、大型案件は継続しているが、中小案件は少なく溶断業者の加工量も少ない。	急激な価格上昇が建築需要に及ぼす影響は甚大。プロジェクト系の大型案件は、依然堅調なるも、中小案件の計画中止や見直しが散見される。
3. 輸出入動向	2月度の鋼管輸出はシームス・溶鍛接管ともに1月度を若干上回った。鋼管輸入はシームス管が大幅に減少した。	2月の薄板三品入着量は238千トンと前月比14千トン減少。熱延▲21.6千、冷延+6.8千、亜鉛メッキ+1千トン。韓国からの入着▲4千、台湾からは+5.5千トンであった。中国の3月鉄鋼輸出が、前月比105万トン増加し416万トンとなり要留意。	2月輸入通関実績は、7000t。前月比11,000t減。4月は、韓国の岸壁在庫が東名阪九に約2万トン入着予定。	韓国：ウォン安の影響で3月中旬より、輸出高騰が止まっている。 東南アジアは引続き需要は堅調。
4. 海外市場動向	油井管・ラインパイプの需要は継続して旺盛であり、シームス管やUOEは世界的にタイト感を増している。フランシス造船需も旺盛であり、配管用鋼管全般のタイトな状況は継続する見込み。	米国の信用収縮によるリセッションが依然、私試出来ない、欧州も減速傾向が鮮明になっている。高成長を維持している新興経済・資源国についても欧米輸出の鈍化による影響の拡大が懸念される。	全世界的に厚板の需給はタイトであり、単価の上昇が続いている。	中国日形鋼国内市況：875ドル程度。輸出価格は950ドルと輸出をしたほうが良い環境ではあるが、国内需要が堅調な為、輸出は行っていない。
5. トピックス			原料炭決着を受け、高炉メーカーから追加値上げの動きが出始めている。	スクラップの国内市況高騰の影響から、メーカーの販売価格改定の動きが加速。最終需要家は採算確保に苦慮している。

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2008年4月)

発表項目	電炉	
	合同製	高炉
発表者	J F E スチール	
1. 需給動向 (景況感)	<p>○2月度の建築着工床面積は、非木造で前年同期比▼20% (1月▼14%)、RC造でも同▼15%と引き続き停滞している。</p> <p>○3月度の関東小棒生産量も、前年同期比▼12%と引き続き低水準の状況が続いている。</p>	<p>経済産業省が発表した2月の鉄工業生産動向指数は、前月比+1.6%と2ヶ月振りに上昇に転じ、前年同月比は+5.1%と大幅に上昇するなど、足元の製造業の好調さを反映した結果となった。(3月生産動向指数110.2)</p> <p>一方、今後については、3月の日銀短観では、大企業の08年度設備投資計画が、07年度比▲1.6%と、3月度調査としては4年振りのマイナスに転じるなど、景気の先行きに対する企業の慎重な姿勢が同われるものとなっている。</p> <p>海外においては、BRICs等新興経済国ならびに資源国経済は堅調に推移している。但し、米国は、3月の雇用者数が前月比▲8万人と大幅減、住宅着工件数も年間算で94万戸と17年ぶりの低水準となるなど経済の失速懸念が一段と強まっていることから、米国景気減速の世界的実体経済への影響等、今後の動向には引き続き注意が必要である。</p>
2. 需要産業動向	<p>○マンション契約率の落込みが続いており、首都圏契約率は10-12月62%、1月53%、2月60%と鉄筋棒鋼の需要減が避けられない見通しとなっている。(2007年度の首都圏マンション契約率：66.3%)</p> <p>○流通は建設資材の相次ぐ上昇に伴い価格転嫁を急ぐとともに、ゼネコンに対する与信管理の徹底に取り組んでいる。</p> <p>○ゼネコンも鉄筋をはじめとする資材高騰分を見積に反映させているが、鋼材の値上げピッチに追いつかない状況となっている。</p>	<p>国内鉄鋼需要は、2月の普通鋼鋼材受注の建設向けが6ヶ月振りに前年比でプラスに転じ、製造業向けが好調を維持したこともあり、全体では堅調に推移している。2月の粗鋼生産は前年同月比+6.5%の98.1万トンと2月単月では過去最高を記録した。(従来1980年 92.4万トン)</p> <p>このようなか、経済産業省は08年度第1四半期の粗鋼需給見通しを、建設向けが前期比微増、製造業向けは減少とみて、前期比では▲5.4万トンとなるものの、3期連続の3000万トン台となる302.7万トンと発表している。</p>
3. 輸出入動向	<p>○ビレットの輸出数量は1月が前年同月比+153%の106千ト、2月が同比+259%の173千ト。</p> <p>○鉄筋棒鋼輸出数量は1月が前年同月比+158%の44千ト、2月が同比+163%の72千ト。</p>	<p>海外鉄鋼市場は、各国とも原燃料の高騰を反映して市況が上昇する中、欧米を除く世界の鉄鋼需要は底固く推移している。但し、今後とも減速傾向を強めつつある欧米経済の動向を注視するとともに、世界の需給バランスに大きな影響を与える中国の生産並びに輸出動向に注意を払う必要がある。</p>
4. 海外市場動向	<p>○東南アジアを中心にビレットへの引き合いは多く、価格も原材料高、プレート高等を背景に急騰中である。特に、台湾の鉄筋市況は原料、鉄屑価格の高騰によって引き続き強含みで推移している。</p>	<p>先口、IISIは09年までの鋼材見掛消費量について、米国やEU経済の減速が予想されるが、鉄鋼需要は新興国の好調に下支えされ、引き続き堅調に推移するとの予測を発表した。</p>
5. トピックス	<p>○スクラップ価格 東京製鐵のスクラップ購入価格(公表値)は岡山工場(陸上) 61.0千円/ト、宇都宮工場60.5千円/トという状況</p>	<p>08年度原燃料炭価格交渉 BMA社(豪) I級強粘結炭価格300ドル(07年度98ドル)で決着。</p>